

第 21 回廿日市市産業振興審議会 議事録

日 時：令和 8 年 3 月 26 日（木）10：00～12：00

場 所：廿日市市役所 3 階 政策審議室

出席者

(委員)

- ・ 県立広島大学 副学長 上水流委員（会長）
- ・ 広島工業大学 副学長 林委員
- ・ 廿日市商工会議所 会頭 澁谷委員
- ・ 佐伯商工会 会長 夏原委員
- ・ 大野町商工会 会長 田島委員
- ・ 宮島町商工会 会長 松本委員
- ・ ひろしま農業協同組合 佐伯中央地域 統括長 野村委員
- ・ 一般社団法人宮島観光協会 会長 中村委員
- ・ 廿日市市金融懇談会 幹事支店長 末次委員
- ・ 中国経済産業局 総務企画部 企画担当課長 中野委員
- ・ 廿日市公共職業安定所 所長 地主委員
- ・ 廿日市市 副市長 村上委員

※広島修道大学商学部 教授 富川委員（副会長）、一般社団法人はつかいち観光協会 代表理事会長 塩田委員、広島県商工労働局 地域経済支援担当部長 石濱委員は欠席

(事務局)

- ・ 産業部長
- ・ 産業部 産業振興課長
- ・ 産業部 農林水産課長
- ・ 産業部 観光課長
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 係長
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 主任
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 主任主事

1.開会

開会あいさつ、委員紹介（事務局：産業振興課長）

（記録省略）

会長挨拶（上水流会長）

- ・皆様、年度末のお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
- ・本日は、第2次の廿日市市産業振興ビジョンの成案についてと、産業振興ビジョン関連事業の実施状況とその成果を毎年度末にご審議いただいておりますが、その2つを合わせて実施するため、内容的にボリュームがあります。ご負担をかけますが、忌憚のないご意見を出していただき、充実した会議になるようにと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2.議題

議題(1) 第2次廿日市市産業振興ビジョンの成案について（資料1・資料2）

上水流会長

- ・議題1 第2次廿日市市産業振興ビジョンの成案について、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局

（産業振興係長より資料説明：記録省略）

上水流会長

- ・ご説明ありがとうございました。
- ・頂戴したご意見の反映状況も資料2としてまとめてあります。ご自身の意見を中心に対応方針や回答、また成案への反映状況や写真なども含めて、最終的にご覧になっていただければと思います。この成案は、市長決済を受けるものとなっていきます。
- ・写真について、例えば4ページ、5ページなどは、写真が意味するところの説明があるとよいと思います。
- ・表紙の絵柄は、性別と色づかいや服装などが配慮されていると思いましたが、ダイバーシティをどのように表現していくかという観点で、健常者の人が多く、肌の色合いもほぼ同じといったことが気になりました。これから、多様な人が働いていらっしゃるということを気にしていかないといけないだろうと思います。

事務局：産業振興係長

- ・写真の説明を入れるようにします。
- ・表紙のイラストは、多様性を意識したものとなっておりますので、出来る範囲で対応します。

林委員

- ・写真の説明は、本文を読めばイメージできる写真もあります。例えば、4ページの写真は文章の中で補足することで関連付けられるのであれば、すべての写真に注釈、タイトルが入るところまではしなくてもよいと感じました。

上水流会長

- ・ありがとうございます。最終的には事務局にお任せしますので、お願いします。
- ・議題1については、一部修正をするということですが、本文の中身については、この成案を承認するというところで進めさせていただきます。

議題(2) 令和7年度産業振興ビジョン関連事業の実施状況及び成果について(資料3)

上水流会長

- ・議題2 令和7年度産業振興ビジョン関連事業の実施状況及び成果について、事務局よりご説明をお願いいたします。

戦略1 地域経済を支える・成長させる人材の育成、確保

事務局

(産業振興係長より資料説明：記録省略)

- 【戦略1-戦術1：産業人材の育成、確保、誘致】
- 【戦略1-戦術2：多様な働き方の実現と就職支援の強化】
- 【戦略1-戦術3：創業の支援】
- 【戦略1-戦術4：事業承継、第2創業の支援】
- 【戦略1-戦術5：商店街等のリーダーの育成と多様なプレーヤーの呼び込み】

上水流会長

- ・戦略1に関するご説明ありがとうございました。委員の皆様からご意見やご質問があればお願いしたいと思います。追加でさらに説明をいただける部分、また情報提供できる部分などがありましたら、お願いしたいと思います。

中野委員

- ・戦術2の地域おこし協力隊の関係です。中国経済産業局では、地域に入っている地域おこし協力隊が定着しづらい中、ITリスキリング研修をしながら週の半分働いて、IT技術のスキルを持った上で地域に定着していただく実証をしています。島根県飯南町と広島県竹原市で実証し、DXを必要とされる地域の事業者へITスキルを持った地域おこし協力隊の方々を派遣する取り組みをしていくと同時に、副業・兼業で農業、観光関係の人材が足りないところに根付かせていくという取組です。先行している秋田県では長らくリモートワークに取り組んでいる例もあります。調査の結果もホームページに載せますので、地域おこし協力隊の定着に難しさがあれば、ぜひ見ていただいて、人材の活用につながるということをお伝えいただけるようお願いいたします。

上水流会長

- ・ありがとうございます。地域おこし協力隊についてご意見をいただきましたが、状況などご説明できる場所があればお願いします。

事務局：産業振興係長

- ・地域おこし協力隊は、中山間地域と沿岸部の商店街の活性化、宮島の伝統工芸活性化を担当する方がいらっしゃいます。中山間地域では、農業の振興と県立高校の活性化、移住・定住のための取組として空き家バンクなどが中心の活動です。それぞれ最大任期3年間ということで活動しており、比較的うまくいっていると評価いただいています。その理由としては、地域支援員同士が集まって定期的な会合が開かれていることが一つあります。また、市役所に机を置いて普段から顔を合わせて、お互いの活動が見えるようにしていることがやる気につながっているという気がします。

事務局：産業部長

- ・廿日市市では「地域支援員」と呼んでいます。中山間地域の地域支援員同士が、日頃

からネットワークを組んで、いろいろな協議を重ねています。一つ大きなミッションとして、津田商店街の空き店舗活用があります。空き店舗活用を実践している移住者のネットワークで、地域支援員の任務が終わった後に自分で起業して店を開店した事例が2~3件出てきています。人と人とのつながり、ネットワークの中で3年後に定着するという傾向が見えてきているので、さらに強化していきたいと思います。

- ・先ほどご紹介があったリスキングの仕組みなども参考になるところがあるので、地域支援員の方にも情報提供しながら、いろいろな分野の仕事が中山間地域で広がればよいと思います。

上水流会長

- ・地域おこし協力隊は、元々総務省の制度としてあり、そこに経済産業省が支援事業を実施しているということだと思います。ぜひ、情報提供していただければと思うところですが。
- ・それでは、戦略1については以上とさせていただき、続きまして戦略2についてご説明をお願いいたします。

戦略2 市内を縦断する食産業「フードバレーはつかいち」の創出

事務局

(産業振興係長より資料説明：記録省略)

【戦略2-戦術6：農業の多様な担い手の育成と経営力の強化】

【戦略2-戦術7：水産業の6次産業化の推進と環境の保全】

【戦略2-戦術8：食の現場ツーリズムの立ち上げ】

【戦略2-戦術9：地元農産物と観光等をつなぐ地産地消の仕組み】

上水流会長

- ・ご説明ありがとうございました。戦略2に関しまして、ご質問・意見、また委員の皆様から補足の説明がございましたらお願いいたします。
- ・戦術6の課題として、農業希望者は多いが、趣味や家庭菜園のレベルが中心のため事業化への伴走が必要とありますが、少し意図をつかみづらいで、ねらいについてご説明をいただけるとありがたいと思います。

事務局：農林水産課長

- ・農業を振興していく中で、兼業農家などいろいろありますが、どこを支援していくかというところで、やはり一番力を入れないといけないのは担い手をどうするかという点です。中山間地域の農村農業をどう守っていくかという部分で、趣味でやる農家はそれでよいですが、やはりしっかりと生活の一部にするには、それなりの整備も必要になりますし、技術的なものも必要になります。市としても日頃から農業指導員をつけて、経営目線で安定した経営を支援していくということが基本であります。ここでは、体験など広く捉えてもらうということで書いております。

上水流会長

- ・なるほど分かりました。広く関心を持っていただくことで、少し裾野を広げて、ということであろうかと理解しました。

補足説明

- ・農業ビジョンのヒアリングに携わった立場から、関連する部分を紹介しますと、認定農業者の育成が非常に重要なポイントであろうかと思っております。今回のヒアリングでは、

新規就農の希望がありながらも、農地の確保や実際のマッチングがひとつの課題であると感じました。もう一つ、親元就農も出てまいりました。従来は新規就農者が中心でしたけれども、農業者の子ども、あるいは孫の就農にも応援が必要ではないかという声が、地元からも上がってきているように感じます。新規就農者に対するサポートは手厚いのですが、親元就農も含めた新しいプレーヤーの呼び込みがこれから大事だと感じた次第でございます。

上水流会長

- ・分かりました。
- ・続きまして、戦略3についてご説明をお願いいたします。

戦略3 森林の育成から木の消費までを結ぶ「木のたびネットワーク」の形成

事務局

(産業振興係長より資料説明：記録省略)

【戦略3-戦術10：木のまちはつかいちを牽引する企業・挑戦するグループ等の集中支援】

【戦略3-戦術11：産官連携による市食材活用の仕組みの構築、事業化】

上水流会長

- ・ありがとうございました。戦略3に関しまして、ご質問がございましたらお願いいたします。
- ・大学関係で気になったのですが、広島工業大学とはつかいち木工研究会が共同で木のまちはつかいちをPRするためオリジナル新商品の開発を行ったというのは、新商品ができたという理解でよろしいですか。

林委員

- ・はい、そうです。

事務局：産業振興課

- ・2つの商品が完成してしまっていて、木のランプと花咲く器という桜の花をモチーフにした木の器を販売させていただいております。まだオンライン等での販売は行っていないのですが、学生に対しても販売についての教育を絡めて経験を積み、販路を拡大していきたいという思いがあります。販売先の方とも連携していきたいと思っています。

上水流会長

- ・そのために販売先が今後の課題ということですね。学生も関わって作られたよいモデルだと思うので、ぜひ存在感が出るような形になればよいと思います。

渋谷委員

- ・こういった商品は、どこで買えるのですか？

事務局：産業振興課

- ・まだ明確な販売場所は決まっていないのですが、2月に産業まちづくり委員会で開催した異業種交流会でお披露目会という形で商品を発表して、中国新聞などいろいろなメディアに取り上げていただきました。現状として商品の常設販売まではできて

いませんが、はつこいマーケットなどに置かせていただけるのではないかと考えています。

渋谷委員

- ・今質問した理由は、我々企業が日本各地の方々にプレゼントするときに、ぜひそういう商品を選ぶべきだろうと思うのです。情報がないと探しようもないので、ぜひよろしくをお願いします。

事務局：産業振興課

- ・広島工業大学とも連携して、PRしていきたいと思います。

上水流会長

- ・広島県立大学でもいろいろな形で商品開発に関わるのですが、大学が関わることの悪いところとして、創り手として「これはよい商品になる」と勝手に思っていて、結果として売れないというのがよくあるパターンなので、出口戦略をしっかりと考えないといけないと思います。課題として書いてありますが、やはりどうやって売っていくのか、売れてこそその商品開発という部分があると思いましたので、どのように展開されるのか気になりました。
- ・PRということでは、工業大学と一緒に作ったものが市役所に置いてあると目に見える形になるのではないかと思います。今日来てみて、やはり市役所の入口はよい広告の場になると感じました。

林委員

- ・学生が関わらせていただいて、単にデザインだけでは商品というところまでにはまだハードルがあるというようなこと、一度作ったものに対してコメントをいただくと、まだまだ改善すべきところがあるというようなことをすごく学んできていて、大学の中だけで得られない経験ができたというところがあります。継続しながら、それが結果的に地域への愛着にもつながっていけばよいと思っておりますので、引き続き見ていければと思います。
- ・商品を市役所に置くというのがありますけれど、例えばゆめタウンなどの一角に展示コーナーを作って、より周知していくというようなことも有効だと思います。大学でも考えていたりしますので、議論させていただきながら、うまく連携していけるとよいと思っています。

上水流会長

- ・ありがとうございます。
- ・戦術 11 は、木製遊具を市産材で製造しているということですが、市産材で作ったものだという PR はされているのでしょうか。ただ製品があるだけではなくて、廿日市は木のまちだということが分かるような可視化が必要ではないかと思っています。

事務局：農林水産課長

- ・市産材を活用しましたというラベルなどがあると思います。建材として使うものについては難しいですが、遊具やベンチ、テーブルなどに利用する場合、また一般に使われる市民センターなどでは、市産材を利用していることが分かるようにしようと思います。

上水流会長

- ・分かりました。いろいろな考えや予算の問題もあるとは思いますが、せっかく市産材を使っているということであれば、市民の方にそういう製品があるということを知っていただくことは大事だと思います。

- ・それでは続きまして、戦略4に関して、事務局の説明をお願いいたします。

戦略4 観光まちづくりのマーケティング/マネジメント機能の強化

事務局

(産業振興課 産業企画係長より資料説明：記録省略)

【戦略4-戦術12：レスポンスブルツーリズムの推進】

【戦略4-戦術13：ストレスフリーな観光地づくり】

【戦略4-戦術14：マイクロツーリズムの普及・定着／「過疎」コンテンツの充実】

【戦略4-戦術15：インバウンド観光の復活、市内周遊促進】

【戦略4-戦術16：「新たなにぎわい×地元事業者」による稼ぐ仕組み】

上水流会長

- ・ご説明ありがとうございました。それでは戦略4に関しまして、委員の皆様からご意見等を頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

中村委員

- ・戦術15のインバウンド観光の「復活」というのはどのような意味でしょうか。ブラッシュアップなどの表現がよいのではないのでしょうか。

事務局：産業振興係長

- ・5年前にビジョンの後期期間を策定してしまっていて、その時に戦術を決めています。当時はコロナ禍が明けていく時だったので「復活」という表現にしております。新しいビジョンでは表現を変更しています。

上水流会長

- ・分かりました。他にいかがでしょうか。

地主委員

- ・戦術12「清掃活動」の部分は誤植だと思います。

林委員

- ・戦略13「女性トイレ」、戦略14「観光コンテンツ」の部分も変換ミスがあります。

事務局：産業振興係長

- ・修正して公開をいたします。

上水流会長

- ・戦術13「観光課さまへ」という表現も気になります。

中村委員

- ・戦術12「牡蠣」も二文字必要です。

野村委員

- ・戦術12「11/1と2に開催された」という表現は「11月1日と2日」とした方が分かりやすいと思います。

上水流会長

- ・ここには書いてありませんが、宮島でカップにレモンが入ったお酒があり、レモンとカップを分けて回収するのに手間がかかるという話を聞いたことがあるのですが。

松本委員

- ・宮島口と宮島のおもてなしトイレに分別するための新しいゴミ箱があるのですが、まずカップからレモンを出す、次に氷を捨てる、そしてカップを捨てるという3段階になっています。ゴミの分別が、厄介な問題にはなっていると思います。その対策として、事業者にはゴミ拾ったりするよう進言し、土日祝日の繁忙期には事業者が雇ったグループがゴミを回収されています。

中村委員

- ・法被を着て、台車を押してゴミの回収に歩くようにされています。

上水流会長

- ・ストレスフリー、ある意味でサスティナブルな観光のあり方を考えるときに、どのようなことができるのか気になり質問させていただきましたが、対策をとられているということですね。

事務局：観光課長

- ・直接の解決にはならないのですが、令和8年度にはマイボトルの持ち込みといった事業に取り組みたいという計画はしております。やはり分別が難しく、氷がなかなか融けないことから、鹿がレモンだけを食べてしまうという問題もございます。そのために蓋つき容器で、氷は直接流せるようにはなったのですが、なかなか対応が難しい面があります。事業者とも話をしながらマイボトルなどの取組をやっていこうと思っております。

渋谷委員

- ・プラスチックのカップではなく木のカップで、それがお土産になるとかいうのがよいのではないのでしょうか。

松本委員

- ・昨年、広島県からの声かけで、サスティナブルなカップを使うようになった宮島の飲料店などのグループがあります。こういった動きも進めて、ゴミが減っていけばよいと思います。いろいろな事業者がいらっしゃるのでまとまりが悪いですが、積極的に推進していきたいと思います。

上水流会長

- ・それでは続きまして、戦略5に関しまして事務局より説明をお願いいたします。

戦略5 企業の生産性の向上や新事業の創出支援

事務局

(産業振興課 産業企画係長より資料説明：記録省略)

【戦略5－戦術17：大学の知財や金融機関ネットワーク、デジタル技術をつなぐ場づくり】

【戦略5－戦術18：EC市場・首都圏・海外の販路拡大】

【戦略5－戦術19：ウィズ・アフターコロナの需要を捉えた事業再構築・新商品・サービスの開発支援、事業継続力の強化】

上水流会長

- ・ご説明ありがとうございます。戦略5に関しまして、委員の皆様からご意見を頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。
- ・オンラインショップ「はい、宮島です。」は、少し苦戦しているようなお話があるのですが、これからも展開させていきたいという形で理解したらよろしいのでしょうか。

中村委員

- ・コロナ禍の時に各店舗の商品をまとめて販売できるように、ということでスタートして、当初はかなりご注文があったのですが、今は直接お越しいただいたり、それぞれの事業所のオンラインショップで購入されたりということで、ご注文いただく数が減っております。このサイトには、複数のもみじ饅頭屋の商品を集めてまとめて送ることができるという特徴がございますので、このECサイトでないといけないことをもう一度整理して再発信して、継続したいというところでございます。

上水流会長

- ・ありがとうございます。承知しました。
- ・DXの推進支援について、例えば具体的には、最終的にはどういうことをイメージされていたのでしょうか。

事務局：産業振興係長

- ・ビジョンの目標としては、中小事業者の方にデジタルを取り入れていただいて、生産性を向上していきたいというところで、最終的に人手不足や経営改善などにつながるという目標ではあったのですが、そこまでは至っていないということがあります。

上水流会長

- ・昨年、県の経済界の勉強会で、慶応大学の先生が説明されていたのですが、DXは事業を単にデジタル化するだけではなく、例えば、電車が遅れたというようなことがあったときに、自動的に自分が予約していた病院の時間に変更になる、というような、複数のシステムをつないでいくことで幅が広がっていくのがDXの本来の狙いで、これを“システム・オブ・システムズ”と言われていました。複数のシステムをつないでいく仕組みは、デジタルであるからこそ可能になるという話で、私も非常に勉強になりました。やはり、デジタル化の中で「何をしていくのか」という狙いや目的が大事で、単独の企業がデジタル化したという話で終わってしまっただけではいけないだろうと思います。例えば、オンラインショップでも、このオンラインショップと各事業者がデジタルでつながっていて、自動的に反映されていくような“システム・オブ・システムズ”という発想が大切だなと感じました。
- ・それでは、戦略5に関しましては以上とさせていただきます。続きまして、戦略6について、事務局で説明をお願いいたします。

戦略6 新たな都市活力の創出

事務局

(産業振興課 産業企画係長より資料説明：記録省略)

【戦略6－戦術20：市内企業の留置・市外企業の誘致】

上水流会長

- ・ありがとうございました。戦略6に関しまして、ご意見がございましたでしょうか。
- ・課題の中で、廿日市市の観光は常に市全体へどう波及させるかというお話が出てくるかと思うのですが、Aエリアについて一極集中ではなく市全体への波及効果という点で、何かAエリアから波及を広げていくという狙い、構想が今の時点で検討されているという理解でよろしいでしょうか。

事務局：産業振興課長

- ・Aエリアでは交通結節拠点を設けることとしておりまして、そちらから中山間地域等への誘客、観光客の送客も考えているところでございます。また、Aエリアに関しましては、マルシェといったようなものも作られる予定がありますので、中山間地域や海産物などの事業者と今後協力してやっていく形を考えているところでございます。

上水流会長

- ・ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

地主委員

- ・今回、新しく進出される方、工場増設される方、いろいろなところに人材確保が必要かと思えます。特にインターチェンジの近くということもありますし、広域的に、例えば岩国市、山口県方面からでも通勤が可能ではないかと思えます。ハローワークは全国ネットで取り組んでいますし、説明会や求人活動も無料でできます。広域的に連携しながら取り組むことができますので、ぜひ職業安定所のサービスを案内できる機会をいただければと思います。

事務局：産業振興課長

- ・人材の問題は大変重要な問題と私どもも認識しております。ハローワークと廿日市市とは既に連携協定を結びまして、一緒に業務をさせていただいておりますので、引き続き就職ガイダンス等も実施していければと考えているところでございます。

上水流会長

- ・ありがとうございます。

中村委員

- ・中山間地域には、これから吉和にサクラオの工場が出来ますし、時期は分かりませんが、冠高原遺跡が観光素材になっていく可能性がありますので、中山間地域に向けての交通網の整備は、ぜひ前向きにご検討いただきたいと思います。
- ・人材不足については、先ほどDXもございましたが、AIなどを導入して人材不足の部分を補うようなことが必要な分野が出てくると思います。民間企業もどのように自分の会社の事業内容に組み込んでいけばよいか暗中模索で、相談先も掴みづらいので、行政からアドバイスをしていただけるようなことがあればよいと事業経営者として率直に思っています。

事務局：産業振興課長

- ・商工会議所、商工会が相談に対応しており、自分たちが対応できないものに関しては専門家の相談を受けることができます。そういった部分をみなさんにご紹介いただければと思います。

上水流会長

- ・ありがとうございます。このような形で周知をしていただくということが大事だと思います。

- ・Aエリアに宿泊施設ができて、宮浜温泉も宮島も、また他にも宿泊施設があるという中で、それぞれの特色がしっかりあり、客層を奪い合うようなことはない、というイメージで理解してよろしいのでしょうか。

事務局：観光課長

- ・観光の面で、宮浜温泉につきましては新しい温泉源を整備して、魅力の更新をしています。奪い合いというよりは、どちらかという滞在時間を延ばしていただきたいという思いが大きく、観光消費の増加も一つの目的になっております。
- ・できれば周遊というか、いろいろなところに行っていて、廿日市市のいろいろな魅力を味わっていただけるような長期滞在のための整備が、一番大きなポイントだと思っています。宮島に行かれた方は、ぜひAエリアにも行っていただき、温泉にも入っていただく。こういった仕掛けをしていきたいと思っておりますので、ご協力どうぞよろしくをお願いします。

上水流会長

- ・ありがとうございます。戦略6は、以上とさせていただきます。
- ・最後に、戦略7に関しまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

戦略7 「オールはつかいち」の産業支援

事務局

(産業振興課 産業企画係長より資料説明：記録省略)

【戦略7-戦術21：廿日市版DMO・DMCの検討】

【戦略7-戦術22：創業支援プラットフォーム機能の発揮】

上水流会長

- ・戦略7に関しまして、ご意見や市役所への要望等もありましたら出していただければと思いますが、いかがでしょうか。
- ・この部分について、KPIは今どのような状況でしょうか。例えば、観光客一人当たりの消費額は、もう目標値に到達しているという理解でよろしいのでしょうか。

事務局：産業振興係長

- ・KPIは参考資料2をご覧ください。ビジョンの目標年度である令和7年度の目標値を記載しています。今、令和6年度までの数字は判明していますので、その数字を入れさせていただいているところです。観光消費額については、令和6年度が366億円で、令和7年度の目標310億円を上回っているという状況です。観光客数も目標を上回っています。

上水流会長

- ・参考資料2もご覧いただければと思います。

渋谷委員

- ・観光消費額について、令和6年度が366億円で、目標額が310億円というのは、どう捉えればよいでしょうか。

事務局：観光課長

- ・5年前にこの計画を立てた当初の目標が310億円です。実際には目標額を上回ったということで、途中で変更することも話題に出ていたのですが、目標値を変えるのでは

なく、実績を追ったほうがよいと考えています。実際に令和5年の段階で超えていたのですが、さらに上回るように努力しようということで、目標自体は変えずにそのまままっています。

渋谷委員

- ・そういうことですか、分かりました。次の目標はいかがでしょうか。

事務局：観光課長

- ・次の目標としては、観光消費額でいいますと令和12年に650億円まで伸びるように考えています。この大きな要因としましては、Aエリアに400万人の来客があるだろうということで、1人当たりの消費単価を5千円まで上げる目標を掲げております。廿日市市全体では1,300万人の来客を目指して観光消費額650億円といった目標にしております。

上水流会長

- ・DMOについては、先日の新聞報道で成功しているところとそうでないところがはっきりと分かれているという記事がありました。作ればよいというものではないのだなと私も勉強したのですが、そのあたりもよろしく願います。
- ・戦略7に関しまして、よろしいでしょうか。令和7年度産業振興ビジョン関連事業実施状況及び成果について、以上とさせていただきますが、最後に本日の議論全体を通して何かあれば、いかがでしょうか。
- ・それでは別紙の参考資料について、ご紹介をお願いします。

中野委員

- ・今回まとめていただいたビジョンの中の施策をバックアップできる、新しく出てきている施策を紹介します。地方創生推進本部の名称が地域未来戦略本部に変わり、昨年秋ごろから各地域ブロック単位で地域未来戦略をつくっていく取組を進めているところです。地方に大規模投資を呼び込んでいこうとする中で、3つのクラスター計画があります。このうちAの戦略産業クラスター計画は、大規模投資でインフラ投資も含むものというので、半導体や造船ですとか、地域に大規模な戦略産業クラスターを作ろうとするものです。関係事業者のイメージとして大企業、中堅企業、中小企業、個人事業主、農林水産従事者がありますが、今後、地域単位、県単位、市町村単位で地域産業成長プランを作って、地域に投資を呼び込んでいく計画策定が始まっていきます。地域産業成長プランについては、先週3月18日に内閣官房から県を通じて市町村へ事務連絡を行っています。
- ・特に、市に関わりがあるのがCの地場産業成長プランです。魅力あふれる地域資源、農林水産品・食品、観光、スポーツ、伝産品等について、活用されていない資源の発掘や新規活用、さらには加工度を高める、深掘りしていくなど付加価値を高めて外商を推進していく取組やプランを作っていけば、地域未来交付金（旧地方創生交付金）の優先採択につながりますし、各省庁の支援も優先して活用いただけるようになります。さらには、新たな財政措置の検討として、別に新しく企業向けの支援メニューも検討されています。先週からそういった話が出てきておりますので、市町村単位で成長プランを作って、地域の重点事業者が取り組んでいる取組を出していくことによって支援が受けられやすくなるので、ぜひ活用いただければと思います。

上水流会長

- ・ご紹介いただき、ありがとうございました。
- ・令和6年度のKPI数値を見ると、観光は非常に好調だと思う一方で、目標値に届いていない項目もいくつかあります。例えば、廿日市市に戻ってきたいと思う中学生の割合や創業支援の人数などが及んでいません。先ほど申し上げたスマート農業の取組

についても、目標 12 に対して 2 という状況で、観光分野の好調さと比べると苦戦している数値が出ているのかなと思いついて見せておきます。

- ・創業支援も、他の地域も同様ではありますが、それ自体が悪いということではなく、副業的にネイルアートの会社を作る方などが出てきています。ただ、産業として育てていくような部分でいうと、今日のご説明でも少し足りていないとお話もありましたので、観光分野からでも波及効果があるような展開になるとよいのではないかなと思いついて見せておきました。
- ・農業もなかなか難しいというところで、好調な部分と課題がまだ残る部分がクリアに見えてきているのかなと思います。来年度以降の新しい計画の中でどのように取り組んでいくかだろうと理解をいたしました。
- ・最後に村上委員よりコメントをお願いして、終了としたいと思います。

村上委員

- ・今回の新しいビジョンの作成に関わっていただき、ご尽力いただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございます。これから 10 年間の羅針盤となるビジョンに基づいて、様々な政策を実施していければと思います。
- ・今回のビジョンの理念は、「つながる」がキーワードになっています。まさに合併をして 20 年経っています。当時の観光のキャッチフレーズを今日思い出したのですが、確か「1 日では足りない」というポスターがありました。合併して吉和から宮島まであるということで、1 日では回りきれないというのが当時の PR の柱で、まだまだつながりができてない状態だったのかなと思います。
- ・吉和では、すでにサクラオが醸造所を稼働していますし、第 2 フェーズになるとビジターセンター、宿泊施設等々もできると聞いていますので、吉和に人が来るきっかけができそうです。冠高原遺跡が日本で最古ということになれば、宮島に来られた方が吉和にも興味をもつということに現実味が出てきて、行きたい場所になるのかなと思います。以前は「こんなところあるからぜひ来てください」と連れて行かないといけなかった場所だったのですけれど、今度はお客さんが行きたい場所になるのではないかなと思います。
- ・今回作った DMO が「はつかいち宮島ツーリズム」という名前なのですが、PR においても「廿日市」という言葉がもう少し前に出ていけるのではないかなと思っています。産業ビジョンにとっても、今まで弱かったネームバリューが少し上がっていく可能性、きっかけがあるような気がしました。ビジョンの表紙については、事務局一任で修正も含めて考えていきたいと思っています。今後、A エリアができたり、先ほどのサクラオができたり、宮島にはこれからミュージアムを作っていけないといけなくて、先ほどの交付金あたりも実はあてにしている部分もありまして、ぜひそういったシナリオは作っていきなさいと思っています。
- ・産業については、今、新しい事業者が、新しいものを作ろうとしている動きもありますので、今後特産品などになりそうな動きも出てきています。それもこれも廿日市市・宮島に多くのお客さんが来られて、ホテルがたくさんできつつあり、廿日市市が期待されているのだらうと思いますので、この動きを後押しできるように皆さんもぜひご支援いただきたいのと、市も歩みを止めずにしっかり頑張っていきたいと思っています。今日のまとめというよりも、今後の廿日市市の動き、来年度から新しい未来ビジョンに沿って 10 年間取り組んでいくということへの決意というか、取組をまた始めていくということになりますので、ぜひとも皆さんのご協力をよろしくお願いします。

上水流会長

- ・ありがとうございます。以上で、本日の審議会を終了したいと思います。
- ・1 年間にわたりお忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。県立広島大学にも宮島学センターがございますので、ぜひご協力させて頂ければと思つてお

ります。本学も含めてまた来年度以降も引き続き、よろしく願いいたします。

事務局：産業振興課長

- 本日も審議いただきました内容につきましては、事務局で整理させていただいた後に、会議録の概要等の配付により皆様に共有させていただきます。次回の審議会は5月もしくは6月を予定しておりますので、よろしく願いいたします。
- これをもちまして、第21回廿日市市産業振興審議会を閉会させていただきます。委員の皆様、ありがとうございました。